

復職を希望する者が出来たので会社側は二、三とばかり四日朝から両工場の門を閉き解雇者側の職工の入門を許したが、それと聞いた争議團は結束を破つて会社に降伏する職工を牽制すべく早朝から両工場門前に待ち伏せて睨みつけてゐたので入門せんとした職工も踵を返し復職するものは一人もなかつたし、争議團もいよいよ結束に破綻を来したことを見て遂に職長等の調停案を認め今迄職長等に調停を一任するらしい意向である、会社當局は

争議は職長等の調停で職工側の要求を一應全部撤回し總べてを工場長に一任する事となり四日正午無事に解決したのである四日朝には入門を許したが未解決の儘であつたから入場者もなかつたが五日朝から多数入場するといつてゐる。

六月六日 大阪毎日新聞記事

纏りかゝつて又も破裂 因島鐵工所争議

大阪鐵工所因島工場及三庄工場の労働争議は中絶に立つたが、争議團幹部との間に諒解を得四日總ての要求を撤回し工場長に一任することと話を纏め争議を打切るは言のところ争議團幹部が同夜一般職工に圖つた結果職工の大部分は工場長に全部を一任することは面目も出来ぬと主張したので争議は更に繼續されることとなり争議團は五日正午大正座で報告演説會を開き今後の対策につき協議した而して現在双方の主張の相違する点は会社側が全部を一任するならば紳士的態度を以て適宜に取計ふといふに對し職工側は要求條件中日給増額の点につき此際五錢乃至十錢増給を發表されたいといふにあつて会社側では要求としては絶対に容れない最初の聲明を徹してゐる伊藤廣島縣警察部長は四日正午尾道市に來り争議の状況を調査して五時半后歸縣したが縣當局としては調停に立つことほしないやうである。

六月六日 大阪朝日新聞記事